

2013年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、北極海からグリーンランド付近でブロッキング高気圧が形成された一方、大西洋からユーラシア大陸北部にかけて東西に広く負偏差となった（負の北極振動）。中国南部から日本の東海上にかけては正偏差が広がり、中央アジアから本州付近にかけて高温偏差となった。ユーラシア大陸上では偏西風の分流傾向が明瞭で、亜熱帯ジェット気流は平年に比べて南寄りだった。オホーツク海付近では低気圧がたびたび発達した。

熱帯の対流活動は、南太平洋収束帯（SPCZ）で平年より活発、インド洋東部からマレー半島付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、太平洋から大西洋を東進し、インド洋に達した。対流圏下層の赤道域では、海洋大陸付近と太平洋東部で西風偏差、太平洋西・中部で東風偏差だった。対流圏上層ではアジア南部、北太平洋中部で低気圧性循環偏差だった。南方振動指数は+1.3だった。

世界の天候

2013年3月の世界の月平均気温偏差は+0.13°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、8番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.82°C/100年（速報値）である。

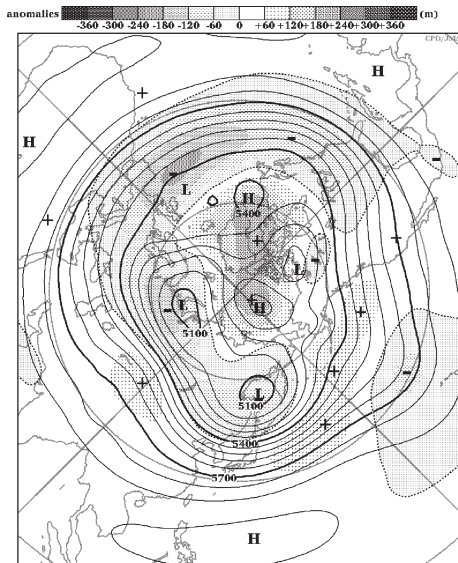
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国北西部～南東部では異常高温となった。
- 西シベリア～ヨーロッパ西部の広い範囲で異常低温、ヨーロッパ北部で異常少雨となった。
- ロシア西部～アフリカ北西部沿岸で異常多雨となった。

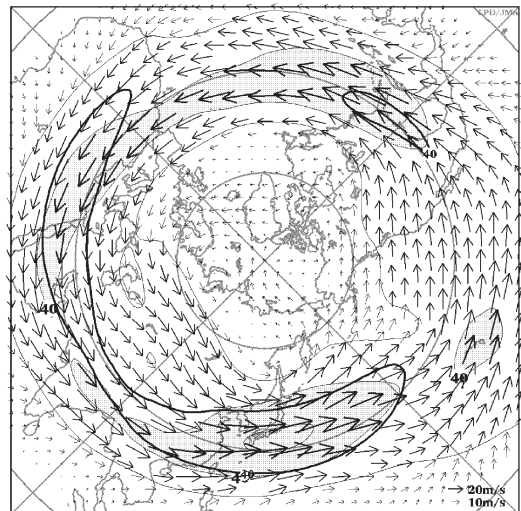
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

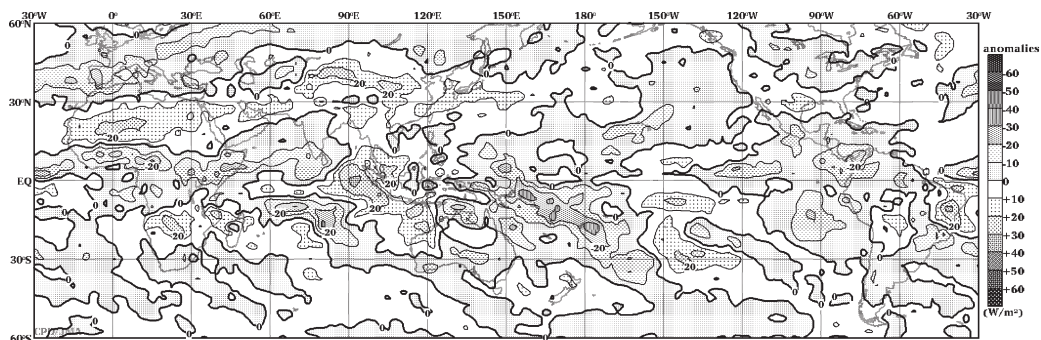
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



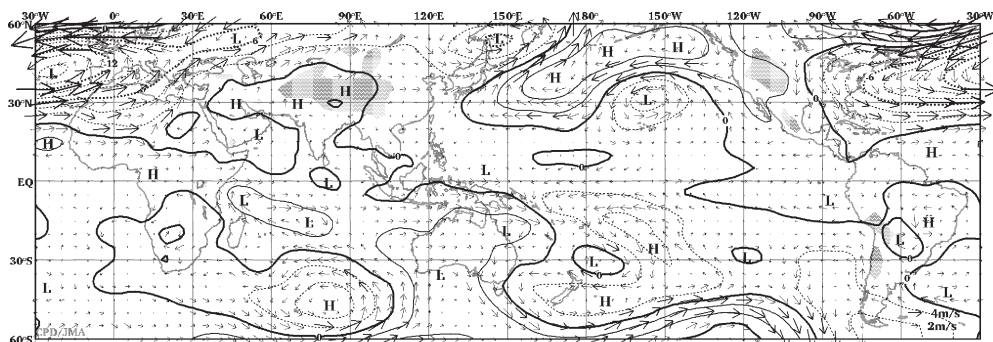
2013年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



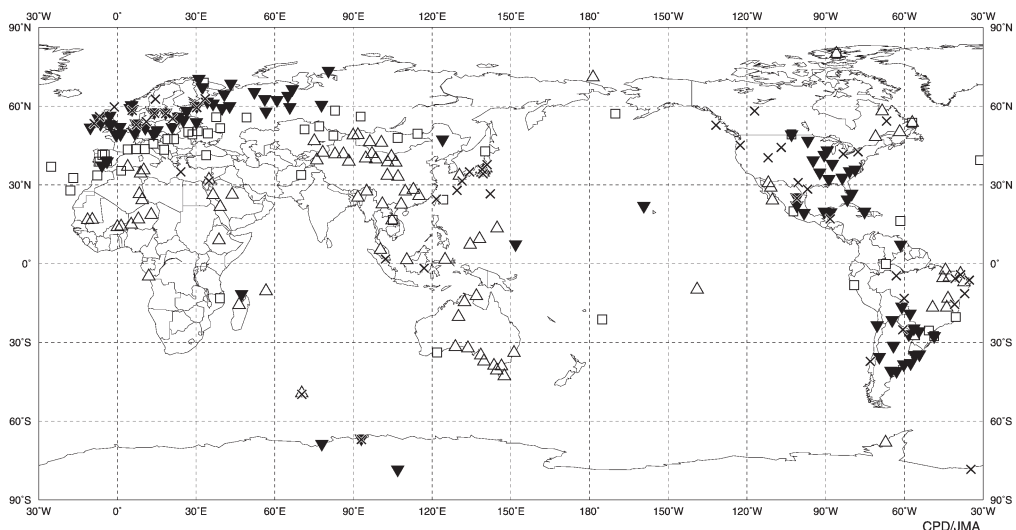
2013年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA、平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。